鹿屋工業 PTA 新聞

－発行－
鹿屋工業高等学校 PTA
発行責任者　岩元 伸二
編集責任者　西村 孝子

平成23年度ＰＴＡ総会

Parents 保護者
学校職 teacher
association
共通な理解のもと自発的につくる集団

総会当日出会率　73.4%
報告会 (5/30)　54.0%
総出会率　87.6%
just do it

部活動加入のすすめ

校長 元和夫

ＰＴＡ会員の皆様、日頃より本校の教育活動に対しましては深いご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

さて、先日は関東地区同窓会（二十五会）に参加して参りました。約百名の会員の方に対して校長と部活動の指導に取り組んで参りますので、各ご家庭におきましても、一家団欒の席などで子どもの夢や将来の目標等について十分に語り合っていただきますようお願い申し上げます。

また、本校の教育活動の次第向上の為に、ご協力を賜り、誠に有難うございます。

度も全職員が一丸となり、教科指導や資格取得及び部活動の指導に取り組んで参りますので、各ご家庭におきましても、一家団欒の席などで子どもの夢や将来の目標等について十分に語り合っていただきますようお願い申し上げます。

さて、先日は関東地区同窓会（二十五会）に参加して参りました。約百名の会員の方に対して校長と

PTA研修視察（6／28）

私の長男は一年前に工業高校を卒業して東京電力に就職しました。入社式の日、会社の方から「お父様は何か仕事をされていますか？」と聞かれ、「父は鹿児島で高校の先生をしています。」と答えると、「それは素晴らしいですね。」と言われました。

その時、私は「ああ、そうか。」と思いました。

私は、高校の教師として、生徒の将来の夢を実現させるために、日々、生徒と接しています。

しかし、生徒の将来の夢を実現させるために、私自身が何をしているのか、何をしなければならないのか、ということを考えたことがありませんでした。

今回、研修視察に参加させていただき、原子力発電所の安全性や、原子力発電所で働く方々の熱意を感じることができました。

また、原子力発電所の安全性や、原子力発電所で働く方々の熱意を感じることができました。

研修視察では、子どもたちの就職・進学を決める中で、参考になるものはないかと思いました。

また、本校の内容を知ってもらうことができ、改めて工業高校の役割を感じました。

今後、本校の内容を知ってもらうための取り組みを考えていきたいと思います。

来年度も研修視察に参加の一環として行う予定です。御協力をお願いします。

総務部長　田中里理香

よい子を育てる 親への提言10ヵ条

1. 夫婦は信頼し合い助け合っていこう。
2. 先祖を敬い親を大切にしよう。
3. 人間の子供にダメな子は一人もいない。
   その子なりのよさを伸ばしお互いに長所を認め合おう。
4. 思いやりの心、感謝の心、譲り合う心、耐える心を育て、
   積極的に人のために社会のために役に立つ子に育てよう。
5. 父は照る、母は涙の露となり、同じ心に育つなでしこ。
   父の厳しさ、母のやさしさの両性でよい子を育てよう。
6. 親は子供のよきモデルとなり、
   子供の姿を通して反省しよう。
7. 家庭教育は百のことばより一つの実行。
8. 子供の人格を尊重し、子供の心を理解し、
   両親の理想を子供に押しつけないようにしよう。
9. 物を大切にし、命の大切さを教え、かけがえのない尊い命
   を自覚させよう。
10. 親が変われば子供が変わる。
    子供の心が見える親となり、子育てのすべての責任は親に
    あるという自覚をもつこと。

資料：東京家庭教育研究所

家庭教育講演会
「心を育てる親子讃育」

今回の講師は「東京家庭教育研究所　所長　丸山貴代氏」でした。

感じて、難しい話ですが、実感はとても楽しい内容でした。

語りかユーモラスで楽しい内容でした。

しかし、この研究所の創設者である「小林謙一氏」は、最愛の一人娘に自立されたそうです。

肩書きがすごく堅い感じがして、

肩書きがすごく堅い感じがして、

丸山貴代氏「した。

今回の講師は「東京家庭教育研究所　所長

講演の内容も、「子どもは一人一人が素晴しい能力を持って誕生してくる。決して、他人と比較してはいけない。人間は「知的能力（学校で必要な能力）」と「社会的能力（家庭や人間性を育てる能力）」の大切さがあり、今の日本は「知的能力」ばかりを重視しすぎている。学校でも家庭でも勉強勉強で、学力が高い人が偉いと勘違いしてしまうところがあり、そんな人が育ってないなどおかしくなっていました。

教育の原点は「親」が見本になることであり、子どもの教育のあり方が変わるためには、まず「親」が変わらなければ、子は変わる。毎日の生活の中で感じる思いやりのある言葉、子どもの接することも大事である。

子どもにとって、良い言葉も悪い言葉も親から聞いたものがほとんどであり、子どもの言葉も悪いことがあれば、まずは親がごめんなさいと言葉にすることを忘れてはならないと私自身深く考えさせられる講話でした。

学校よりお知らせ

夏休みに入りましたら、来年３月まで残り半分の新本館の耐震改修工事が始まります。現在、西門から入っていただき、正門から出ていただく送迎ルートになっておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

３年生保護者の方へ　PTA 奉仕作業は８月２１日（日）に実施されます。（詳細別紙）

９月３日（土）体育祭当日の駐車場について
昨年と同様に田崎多目的グラウンドの駐車場をご利用ください。

お知らせ

・何か新聞で載せたい記事などがありましたら、PTA 係までお願い致します。

バザー物品回収方法

（受付：担当＆事務室）

今秋催されます工友祭（文化祭）にて PTA 主催の物品バザーを行います。
そこで会員の皆様より物品提出のご協力をお願いします。

回収方法　場　所：事務室（中庭の仮設建物内）
日　時：体育大会当日から10/27 まで

生徒の送迎や学校へ用事がある際に、持って来ていただけると助かります。生徒使でも構いません。その際には担任へお渡しください。

フリーマーケットではありませんので、「新品の使用していない商品」のみの受け付けです。ご協力お願い申し上げます。

地区ＰＴＡのようす

東串良地区　7/1　19:30～

担当の３名の先生方を含め、ほぼ全員参加で会が開かれ、そこに教頭先生まで足を運んでくださいました。

会をとりまとめた私にとっても、とてもうれしく皆様のご協力に感謝することでした。

内容としましては、保護者の方々から頭髪について「１か月に１回は金銭的にも厳しい」・「検査する先生を統一してほしい」などの要望があり、学校側からは、「風紀検査で合格するために髪を切るのではなく、髪が伸びたら切る（清潔に保つ）と自然な形が望ましいのですが、現状は検査に合わせて髪を切ることが習慣となっている生徒もいるようです。」との報告がありました。

その他、部活面・進路面・交通面等、保護者と先生方との和気あいあいとした話し合いの場が持てました。

垂水地区　7/1　19:00～

今年は事前に案内のプリントを配布して頂きましたが、保護者の参加が少なく残念に思いました。先生方から学校生活の様子や進路状況に関するエピソードなど、興味深く感心高いお話をして頂き、また、保護者からは風紀検査についての質問があり、詳しく説明を受ける事ができました。年に一回の会なので、来年度は一人でも多くの方に参加して頂きたいです。

シリーズ　モラルについて

最近よく「今の時代は、モラルが欠如している…」と耳にします。
みなさんはこの「モラル」という言葉の意味を知っていますか？

辞書には、「道徳・論理・人生や社会に対する精神的態度…」と説明されています。

私がに解釈しますと、世の中のたくさんの人々の中で生活をするうえで、周囲の人に嫌な思いを与えない様に各々が気を配り、最低限のルールを守っていくことではないでしょうか・・・。

今の時代がおかしいのは、この「最低限のルール」が分からない大人が、意外と多いことが原因にあると思いませんか？

例えば、車の窓からの煙草のポイ捨て…一本の吸い殻から大きな火事を引き起こすこともめずらしくは無いことですし、後続車等の事故の原因にもなり兼ねません。

また、自分たちで出したゴミを平気で置きっ放しにしたり、自分では嫌な後始末を他人には平気でさせている。それでも何も感じない自己中心的で無責任な大人たちを見て育っていく子供たちに、「最低限」が分かるでしょうか？

人間は、他人の行動には敏感に反応しますが、自分の欠点には鈍感なものです。

もっと簡単に言えば、人間はもともと自分中心に物事を考えてしまうところがあり心に余裕がない時ほど、そうなり易いように思います。

私自身も無意識にその様な態度をとって、周囲の人たちに迷惑をかけてしまっているのかもしれませんが…。

一人一人が、もっと周りの人々に「感謝と思いやりの気持ち」を持って生活するようになれば、世の中は自然と生活しやすくなるだろうし、そのことで自分たちにも心の余裕が生まれ、これからの未来にも明るい希望が見えてくるのではないでしょうか。

シリーズ　親の気持ち

いつの時代も、親というものは子どもの将来を案じ、幸せを願ってやまないものです。
故に子どもの行動が気になったり、つい口うるさくなってしまいます。

親子の間は、どうしても感情が先行してしまい、時には無理やり言うことを聞かせようとしてしまいがちになります。

でも、一時的に強制させても子どもは納得するどころか、反抗の思いを強くしてしまいます。

特に反抗期の頃は、自立したい気持ちと保護されたい気持ちが混在して、自分自身も気持ちをコントロール出来ずに情緒不安定ですが、この頃の経験こそがその後の人生に於いて欠かすことの出来ない社会的人間関係や家族関係に繋がるための、心の基礎を作るとても重要な時期だと思います。

この時期親としてに大切なのは、少し距離をおいて客観的に見守ることかもしれません。

少なくとも、子どもよりは人生経験の多い親から見れば、言うことを聞かない我が子がとてもむしゃくしゃ、時にはばかやくさえ思います。そこをグッと堪えて一方的な説教ではなく、子どもの意見にも耳を傾けてあげることで、親子の信頼関係も強くなるのではないでしょうか。

ただ確実なことは、反抗期はいつまでも続かないということ！！

現に私たち保護者も、多感な時期を過ごしてきたはずです。

あの頃「いちいちうるさいな！！」と思っていた親の言葉が、今になって身に染みるというか「ありがたい」と思えたり、まったく同じことを我が子に説教してたり・・・子どもたちもまた、いつか終わる反抗期の後には親の気持ちや言葉に素直に感謝する日が来るはずです。

その時のために「心に残る言葉」を一つでも多く残してあげたいと思います。

「うちの母　文句の数だけ　愛がある」（栃木県　中３男子作）
なんか、ほのぼのとして良い三行詩ですよね・・・！！